

令和6年度 静岡県立袋井特別支援学校 第4回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年2月27日(木) 9:30~11:30

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計16人

(1) 学校運営協議会員 6人

委員A、委員C、委員D、委員E、委員F、委員G ※委員B 欠席

(2) 学校関係者 10人

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事
支援連携課長、コミュニティ・スクールディレクター、教務課長



4 内容

(1) 校長挨拶

- ・本日の内容について
- ・県の教育理念『有徳の人』と本校教育目標「光る子」について

(2) 会長挨拶

- ・今年度の活動と地域の理解について

(3) 学校関係者評価について

① 令和6年度学校経営

自己評価について成果と課題を報告

② 質疑応答

- ・ 委員G : 「各学部、各分掌と連携し、柔軟で効果的な予算執行ができたとする事務職員」では、昨年度もB評価だったが行った改善はあるか。
- ・ 学校 : 今年度、事務職員が半分近く入れ替わり、今年から来た方の中にはやり切れなかったと感じた職員もいたため、B評価になった。(分母数が少ない)
- ・ 委員G : 学校の蓄電池は、ポータブルか太陽光からの蓄電池なのか。
- ・ 学校 : 学校は太陽光で常時充電しているが、会議室のみ電源が取れるようになっている。24時間使えるかどうかは試していない。
- ・ 委員F : 地域販売会が盛況だった。以前、みをつくし特支の販売会について静岡新聞に載っていたが、新聞を活用しているか。袋井市のインスタには、高等部の無印良品での販売会については載っていた。
- ・ 学校 : 袋井市のメール登録制度には、依頼した。
- ・ 委員G : 磐田市の人は、メールに登録しないと分からない。袋特市では、回覧板を見て来た人がいたが、回覧板にない地域もある。
- ・ 学校 : 販売会の様子がマスコミなどで紹介されると、子供たちの励みにつながるた

め広報を検討してく。令和7年度の広報の参考にする。

- ・委員D：ヒヤリハットは何件くらいあるか？ヒヤリハットの意識をどこにもっていくかが大切。この後いじめの報告もあるが、どのように取り組んでいるのか気になる。また、自立と社会参加について、高等部の卒業のときに大切に取り組んでいきたい。地域の方々が暖かく見守っている。ホームページの更新については、それなりの時間が掛かるため、担当者には作成時間をあげた方がよい。空いた時間ではなかなかできない。
- ・学校：ヒヤリハットの件数は、改めて報告する。
- ・委員E：社会参加について、販売会もそうだが、外部の人に知ってもらうことが大切。特支の生徒は何もできないと思っている企業もある。実際に見てもらうことが大切。キャリア発達については、保護者への研修も大切。
- ・委員A：本人の個性を生かして、社会参加を促すためにその裏でいろいろ大切にしている。先生方も高い使命感がないと続けられないと思う。自己評価し、反省し、前に進むことを続けてもらいたい。就労支援、広報もそうだが、生徒の姿を知ってもらう方法はいろいろある。販売会、運動会などに行ったことがある人とない人で差がある。「メローねっと（袋井市情報配信サービス）」、広報、紙の記事（広報袋井）などに、掛川特支や中遠などで連携して載せることもできる。小さなネットワークでも開拓していくと良い。マスコミだけではなくローカルでも良い。
- ・学校：いろいろな方法があると考えなければならない。発信にあたり、個人情報が必要。ホームページに写真を載せる際には、教師が後ろ姿も全てチェックしている。難し時代になった。呼び掛けて来てもらい、子供たちを直接見てもらう方法もあると感じた。次年度に生かしていく。

③令和6年度 保護者アンケート

集計をもとに評価を報告（意見は3月発行の学校だよりで報告）

④質疑応答

- ・委員G：学校からのお便りや保護者アンケートもCOCCOで配信したか。
- ・学校：COCCOでお便りの配信、保護者アンケートもCOCCOで行っている。
- ・委員G：COCCOを活用することで教師のできた時間をホームページの更新に充てられると良い。COCCOは、届いた後にもう一段階開かなければならないため、開かない保護者もいる。
- ・委員F：PTAの出欠もCOCCOで聞いているが、出してくれない人もいる。
- ・委員G：業務的に楽になることは良い。
- ・委員A：C、D評価は、全体的に4%くらい。返されたアンケートについて、職員の受け止め方等、アンケートを受け取ったときのアクションが大切。
- ・学校：「なぜ評価が低かったのか」について確認してく。その中で、全体で変えていかなければいけないところは変えていく。
- ・委員A：保護者は、アンケートに12回答える人もいる。何かのリターンがないと答えなくなってしまう。どんな形でもリターンが必要。

- ・ 委員 G：アンケートは、答えた人の名前が分かるかどうか。名前を書くことで躊躇する人もいるかもしれない。
- ・ 学校：体罰や人権のアンケートは、封筒を開封しないまま担任から管理職に提出される。
- ・ 委員 F：封筒に封をしてよいのか分からない。
- ・ 委員 G：封筒のまま管理職に届くことが分かるが良い。
- ・ 学校：使い回せる封筒を使用しているので、封ができる古封筒などにしていく。

⑤令和6年度 高等部生活アンケート

資料をもとに報告

高等部主事

⑥令和6年度 高等部3年進路状況

資料をもとに報告

⑦質疑応答

- ・ 委員 E：企業就職の中に特例子会社も含まれるか。
- ・ 学校：今年度はなかったが、就職でカウントしている。

(4) 校内コンプライアンスについて

資料をもとに、今年度の不祥事取組説明（交通事故、生徒指導に関わる内容）

- ・ 委員 D：教員間のパワハラセクハラはどうなっているのか。当事者が内容を言えなくてだいたい経ってから言うようなこともある。QRコードを使い、内容だけでも伝えやすくする方法はある。
- ・ 学校：職員は、安全衛生委員会があり、各学部の情報交換をしている。特支はチームで行っているので、教師が力を発揮できるように気を遣っている。指導の考え方の違いなどはあるが、今のところ風通しが良いと考えている。力が弱い人が声を出しやすいようにやっていく方が良いので、困ったときに声を吸い上げられる対策が必要。管理職が窓口になっているが、実際は言いやすいところに伝えている。QRコードは良い方法なので考えていく。
- ・ 委員 G：児童生徒のことを思って対策している。人間なので感情があるが、立場があるので区切ることが大切。この前、卒業生が不審者に間違えられることがあった。校内は、先生が守ってくれるが、外に出ると守ってあげられない。
- ・ 学校：社会に出たときに、困ったときには誰かに言えるよう学習しておくことが大切と感じた。

(5) 令和7年度学校経営計画案説明

①校長より資料をもとに説明

②質疑応答

- ・ 委員 C：説明で外国籍の児童生徒が15%在籍していると言うことは、保護者もそれくらいいる。日本の保護者との関係はどう考えているか。
- ・ 学校：日本も外国籍の保護者も同じと考えているが、保護者の関係はどうか。

- ・ 委員 F : スクールバスのバス停では、話はしていない。PTA の役員もやっていない。連絡はしているが、孤立感はあると思う。日本人の保護者もどうかかわってよいか悩む。
- ・ 委員 C : 30 年くらいたっているが地域でも進んではない。国際交流に行っても進んではない。IT を使いながら関わったり、力を入れたりしなければいけない。
- ・ 学校 : 保護者と教師が繋がっているのに、保護者同士の繋がりについても考えていかなければならない。
- ・ 委員 A : 外国籍の保護者の方は、障害の子どものことと言葉の壁のことがある。困っている外国籍の保護者に来てもらい、ICT を使いながら役員で集まっていても良い。
- ・ 委員 F : 通訳さんを入れて話をすると良いかも。
- ・ 委員 G : ポケトークを使って外国籍の保護者の困り感を知りたい。
- ・ 学校 : ポケトークは、4～5 台ある。PTA の会合にポケトークを使うことは可能。スムーズにいかなくても、意思疎通にはなる。
- ・ 委員 F : 学年活動のときにポケトークが使えると良い。
- ・ 委員 D : 袋井特支だけではなく、普通の学校でもこの問題はある。県は取り組んでいないのか。保護者の中にも日本語理解の差はあるが、できる人に入ってもらってやってみると良い。
- ・ 委員 A : 防災面でも外国籍の方への理解は人それぞれ。防災ではできていない面も多く、毎年意見として出ている。
- ・ 委員 G : 市の対策も必要なのでは？
- ・ 委員 A : 自主防災なのでそこまでは難しい。やってみるとモデルになるので、ポケトークを用意して、一人防災の会議に出てもらえると良い。
- ・ 委員 E : AI でそういうデバイスが出ている。大学でも外国籍の生徒はいるので、場を作って呼び掛けている。
- ・ 委員 A : 学校間の交流は良いと思う。学校間の先生同士が学ぶことも良いが、親を動かすには子供から。子供同士が仲良くして学ぶことで、それを親に話をする。時間は掛かるかもしれないが、親を動かすきっかけになるのではないか。子供同士の交流もうまくやっていると良いので、期待している。

(6) 今年度の活動報告

① 地域販売会

- ・ 生徒の様子、一般客が増えたことの報告。
- ・ 広報について (QR 付のポスターを掲示、公報での報告)
- ・ 地域の方へのお礼

② コミュニティスクール

- ・ 地域資源を生かした、児童生徒の写真を提示しながら活動の様子を報告。